

漂着物のイメージに関する研究—リュウグウノツカイを例として—

保科 俊¹

Study of image of the drifted objects: an example from *Regalecus russellii*

Shun HOSHINA¹

要 約

本論は、現代における地震予知としての「漂着物」に関するイメージの研究である。かつて「漂着物」がもたらした異人や怪異というのは、人びとに「吉兆」や「凶兆」をもたらす存在でもあった。これは、現代においても予言や予知という形で、メディア上にたびたび登場するようであり、「漂着物」を題材として検証を行った。その結果、1990年代以降、特に、「リュウグウノツカイ」の漂着を地震の予知として扱う傾向が強くなってきていることがわかった。

Key words: earthquake prediction, image, media

はじめに

本論は、現代における地震予知のイメージが付与された「漂着物」に対する研究である。研究の目的は、現代の予言や予知のイメージを明らかにすることである。「漂着物」は、漂着した「モノ」でしかない。しかし Shibutani (1966) の「うわさ」研究を援用し、「モノ」を何らかの形で扱う時、そこには、人々の内面にある「願望」や「不安」が加わるだけでなく、そのモノに関する「情報の欠如」によって、その時代状況やイメージが付与されるのではないかと考える。よってこの時代状況やイメージといった情報を探索していくことで、「漂着物」に関して、また違った見方も可能であると考え。本論では、現代における「漂着物」に対する予言や予知の題材として、リュウグウノツカイの漂着に関する記事を使い考察を行う。リュウグウノツカイ (*Regalecus russellii*) とは、『日本大百科全書』によれば、硬骨魚綱アカマンボウ目リュウグウノツカイ科に属する海水魚である。全世界に分布、日本の太平洋側では鹿島灘以南、日本海側は青森県以南からまれに報告される。全長10mに達し、体はタチウオのように細長い。本間 (2005) は、日本古来の人魚説話を検証、明治時代に人魚＝ジュゴン説が広まり常識化していく以前に記録されていた人魚は、リュウグウノツカイであったと確かめている。森 (1957) の「採集さ

れることの稀なのと、完全なる標本の入手困難」の記述にあるように、「その生態には分からない点が多い」(朝日新聞2002年11月6日)。佐藤 (1995) によればかつて日本では「ナマズ」だけでなく、「件(くだん)」、「アマビエ」などの出現は災害や戦争終結の事象を予言し吉凶の象徴とされてきた。岩淵 (2012) は「近世後期、とりわけ幕末から明治にかけて、錦絵や摺物などの話題としてさまざまな怪異や妖怪が登場」したと述べている。これらは、現代では、あまりに荒唐無稽であり、くだらないものであるとされるかもしれない。しかし、現代においても、似た現象は存在しており、特異なものではないと考える。その代表例の一つがリュウグウノツカイの漂着であると考え。本論では、このリュウグウノツカイの漂着が、メディア上で、どのように描かれ、語られているのかを検証していくことによって、実際に予知を行っているのかどうかではなく、かつて人々が「漂着物」に対して抱いてきたイメージが、現代のメディア上でどのように描かれ、語られているのかに焦点をあてて考察を行っていく。

調査方法

調査方法は、内容分析である。調査対象は、朝日新聞、毎日新聞、日本経済新聞の全国紙および国内に流通している(いた)雑誌記事とした。記事の抽

¹ 東洋大学大学院社会学研究科博士後期課程 〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 東洋大学白山校舎

¹ Graduate School of Sociology, Hakusan Campus, Toyo University, 5-28-20 Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo 112-8606

出方法は、「リュウグウノツカイ」をキーワードとして検索した。使用したデータベースは、朝日新聞のデータベース「聞蔵Ⅱビジュアル」、毎日新聞のデータベース「毎日 News パック」、日本経済新聞のデータベース「日経テレコン」、大宅文庫の「雑誌記事索引検索」、グーグル検索である。検索日は、全て2014年8月15日である。

結 果

朝日新聞からは109件、毎日新聞からは63件、さらに日本経済新聞からは9件が該当した。また、雑誌記事は、24件が該当した(図1)。これらのうち、吉兆や災害の予知や予言として扱われていた記事は朝日新聞21件、毎日新聞13件、日本経済新聞4件、雑誌記事15件であった。

各新聞記事の特徴では、朝日新聞は、1992年から地震の前触れという記事ははじまる。なお1977年に1件地震予知の記事はあるが、「漂着」した記事ではなく、見つけた場合知らせてほしいという案内の記事のため除外した。除外した記事を除いた最初の記事である1992年の朝日新聞では地震のみではなく、吉兆、幸運をもたらすという記事も見られる。毎日新聞は、吉兆に関する記事は1件のみで、他は地震や天変地異の前触れという内容の記事であった。日本経済新聞は、記事の数が少なく、すべて地震か天変地異に関する記事であった。雑誌記事の特徴を、年度順に見ていくと、2010年までは、地震の前兆だけではなく、良いことも起こるのではないか、という記事も含まれている。しかし、2010年の「チリ地震」以降、吉兆に関する記事は見られなくなり、地震に関する記事のみとなる。またどの雑誌記事でもリュウグウノツカイは、「めったに発見されない」ものとして紹介されるが、「発見され」、「地元の漁業関係者は何かの前触れ」なのではと続く。そして、

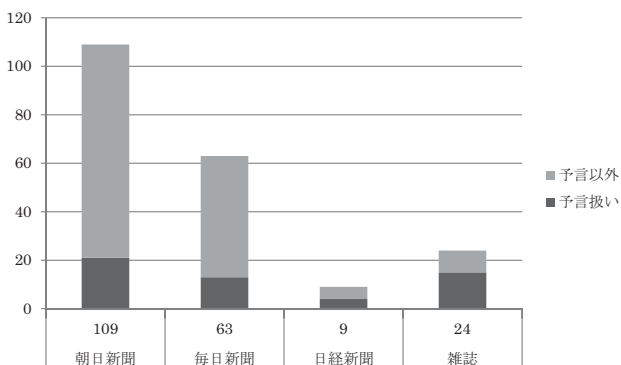


図1 予言扱いと予言以外の記事数

前後に発生した「地震」と関係づけられている。またインターネット上では、「リュウグウノツカイ地震」、「リュウグウノツカイ 2012 地震」が関連する検索キーワードとして出てくる。これにより現代では、一部の新聞や雑誌のみではなく、インターネット上でもある程度「リュウグウノツカイ=地震」というイメージが広がっていることもわかる。

次に、このリュウグウノツカイがメディア上で、どのように災害とのかかわりの中で語られてきたのかを具体的に、紙面の都合上記事数の最も多かった朝日新聞を例に記述する。

このリュウグウノツカイは、明治時代以前にも、日本の海岸に漂着している。「磯野直秀・慶応大名誉教授によると、1800~1831年に、現在の島根や高知などで5件の発見例が古文書に登場する」(朝日新聞2010年4月1日)といい、磯野(2005)が著した『描かれた動物・植物』には「天保2年(1831)1月に筑前国志摩郡で得たリュウグウノツカイ」の画図を確認することができる。いつのころからかはっきりしないが、リュウグウノツカイの漂着は、「地方によって吉兆と凶兆に分かれ」(朝日新聞1990年1月24日)で、「地震の前兆と言われ」(朝日新聞2001年1月12日)たり、「天変地異のきざし」(朝日新聞2002年2月7日)ともいわれる。そして一方では、「大漁をもたらすという言い伝えがある」(朝日新聞1999年2月11日)といわれる。例えば、「丹後の漁師らにはブリなど他の魚を呼ぶ『大漁の吉兆』と歓迎される」(朝日新聞2010年2月6日)という。「めったに網にかからないが一昨年は2匹とれて、県西部地震の前触れではないかと騒がれた」(朝日新聞1992年3月26日)、「日本海沿岸などで発見されると、『地震が来るのでは?』と話題になるそうで、『最近、各地で地震が多発している影響ではないか』の声も」(朝日新聞1995年1月15日)、「リュウグウノツカイに関しては、『天変地異のきざし』とか『豊漁をもたらす』など様々な言い伝えがあるが、マリンワールドに2体がやってきた直後の90年2月23日に、福岡では72年ぶりの大雪が降ったという」(朝日新聞2002年2月7日)、「『80年以上生きていますが、こんな大きな魚を見たのは初めて。きっととても良いことの前兆ですよ』と話した」(朝日新聞2002年2月21日)、「『お祝いの来訪と思いたい』という」(朝日新聞2004年2月2日)、「東南海地震と関連づけられて妙に身近な話になっている」(朝日新聞2004年2月19日)、「漁師の間では『竜宮から土産を届けに来たのでは』『景気浮揚の使いかも』と話題になっ

ている」(朝日新聞2008年12月12日)、「山陰地方で水揚げされるリュウグウノツカイに『地震は、まだ来る』という年配の漁師の言葉」(朝日新聞2010年3月13日)と記述されている。

考 察

リュウグウノツカイが実際に地震の予知を行っているかは別として、現代においては、リュウグウノツカイの漂着が地震予知の代表的なイメージとして流布している。興味深いのは、雑誌記事においては、災害の中でも、「地震との関係」の中で述べられている点である。荒俣(1990)によればリュウグウノツカイは「昔から『地震と台風のお使い』であったという。しかしながら現代では、少なくともメディア上で台風との関係で語られることは少なく(少なくとも雑誌・新聞記事では0件)、地震の前兆として語られる傾向が強い。現代において、凶兆を「件(くだん)」や「人面犬」に語らせるということは、すでに「オカルトチック」なものとなっている。そのため現代のメディア上では予知を語らせるには「オカルトチック」ではないリュウグウノツカイの漂着を使い語らせると考えることができる。「未知の領域に存在している深海の生物」を使い吉凶を語らせることにより「安心」をあたえ、また逆に「危機感」をあおる。

また、雑誌、新聞のどちらにおいても、リュウグウノツカイの漂着の記事が地震との関係の中で語られているのは、1990年代以降である。1990年代初めの記事では、「吉凶の前触れ」のように語られているがその後、毎日新聞、日本経済新聞、雑誌記事では吉兆がなくなり「地震」のみとなっている。朝日新聞では、地方版を中心に大漁に関する吉兆の記事は残っているが、地震との関連も掲載されている。

1990年代、日本国内では、1991年九州の雲仙普賢岳で大火砕流、1993年北海道南西沖地震、1995年阪神・淡路大震災が起こっている。日本は災害大国であるので断定することができないが、この期間は台風津波地震といった災害の中で、地震に関心が集まったといえるのではないかと考える。つまり「現実的にどの災害が問題か」ではなく「社会的に・報道上で・危機をおぼえる災害」というのは台風や津波ではなく地震であったと推測する。

雑誌の場合は、2010年の「チリ地震」以降、吉兆がなくなった。短絡的に、1990年代以降を違った時代であるとはいえないものの、本論の調査結果から

は、少なくともメディア上では、1990年代以降と以前では、リュウグウノツカイの漂着の予知に対する扱いが変化しているといえる。このイメージの変化は荒俣(1990)の「これからの新しい象徴になる」ということを裏付けていると考えられる。

今後の課題としては、他の予言や予知のイメージを付与されていた「モノ」を比較考察する必要もあろう。また、本論ではメディア上ということで地方においての語りについてもわけることなく分析を行った。これらの点については、今後他の報道との比較やイメージの変化のあったキャラクターから考えていきたい。

以上のように、1990年以降においては、リュウグウノツカイの漂着はメディア上で地震のイメージが与えられる傾向にあるといえる。

謝 辞：本論の作成に当たっては匿名の査読者から有益なコメントをいただいた。特に記して感謝したい。

引用文献

- 荒俣宏. 1990. 自由時間萬情報「リュウグウノツカイ」世紀末事情. 自由時間. pp144-145.
- 朝日新聞. 1990. リュウグウノツカイ「何もたらず?」. 1990年1月24日. 朝刊. 社会.
- 朝日新聞. 1992. 深海の奇魚水揚げ 小田原. 1992年3月26日. 朝刊. 神奈川.
- 朝日新聞. 1995. 深海魚のリュウグウノツカイが網にかかる. 1995年1月15日. 朝刊. 社会.
- 朝日新聞. 1999. 深海の珍魚「リュウグウノツカイ」捕獲 山口・長門市. 1999年2月11日. 朝刊. 社会.
- 朝日新聞. 2001. 深海魚, リュウグウノツカイが芦原町の海岸に打ち上げられる. 2001年1月12日. 朝刊. 福井.
- 朝日新聞. 2002a. 総合学習に生きた教材神集島のリュウグウノツカイ, 標本に. 2002年2月7日. 朝刊. 佐賀.
- 朝日新聞. 2002b. 珍魚漂着リュウグウノツカイ, 垂水の海岸に. 2002年2月21日. 朝刊. 鹿児島.
- 朝日新聞. 2002c. リュウグウノツカイの仔魚? 沼津で撮影 大瀬崎海岸で写真家. 2002年11月6日. 朝刊. 静岡.
- 朝日新聞. 2004a. 深海魚リュウグウノツカイが漂着 大分・別府湾. 2004年2月2日. 朝刊. 社会.
- 朝日新聞. 2004b. タチウオ中部水産・神谷友成(魚市場歳時記). 2004年2月19日. 朝刊. 愛知.
- 朝日新聞. 2008. 景気浮揚へ, 竜宮から使い? 対馬でリュウグウノツカイ水揚げ. 2008年12月12日. 朝刊. 長崎.
- 朝日新聞. 2010a. 深海から来た, 長〜い「使い」宮津にリュウグウノツカイ. 2010年2月6日. 朝刊. 丹後.
- 朝日新聞. 2010b. 中部水産・神谷友成, (魚市場歳時記) 愛知県産・コウナゴ地産地消の真骨頂. 2010年3月13日. 朝刊. 愛知.
- 朝日新聞. 2010c. 竜宮から何の知らせ? 深海魚リュウグウノツカイ, 大量漂着年数匹→4カ月に16匹. 2010年4月1

- 日. 朝刊. 社会.
- 磯野直秀監修. 国立国会図書館編集. 2005. 描かれた動物・植物：江戸時代の植物誌. 紀伊国屋書店. 東京.
- 岩淵令治. 2012. 風説と怪異・妖怪－流行病と予言獣－. 歴史系総合誌「歴博」. 第170号.
- 佐藤健二. 1995. 流言蜚語—うわさを読み解く作法. 有信堂. 東京.
- “リュウグウノツカイ”. 日本大百科全書（ニッポニカ）. ジャパンナレッジ Lib（オンラインデータベース）<http://japan-knowledge.com/library/>.（2014/08/15参照）.
- Shibutani, T., 1966, Improvised news: A sociological study of rumor. Bobbs-Merrill.
- 本間義治. 2005. 日本古来の人魚、リュウグウノツカイの生物学（第2分科会:環境・開発・自然・エネルギー, 第10回研究大会報告要旨）. 環日本海研究（11）: 126-127.
- 森為三. 1957. 稀魚 *Regalecus russellii* (Shaw) リュウグウノツカイに就て（分類学・形態学・原生動物学）. 動物学雑誌 66(2・3): 142.

(Received Aug. 31, 2015; accepted Nov. 5, 2015)